

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	飯田短期大学
設置者名	学校法人 高松学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
生活学学科	生活科学専攻		6		15	21	7	
	介護福祉専攻			0	9	15	7	
	食物栄養専攻			4	10	7		
幼児教育学科				0	12	18	7	
看護学科				0	16	22	10	
専攻科	地域看護学専攻				7	7	4	
	助産学専攻			11	11	4		
	養護教育専攻			10	10	7		
(備考) 全学共通科目は、本科基礎教養科目のため、専攻科は対象外								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.iida.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/実務経験のある教員等による授業科目一覧.pdf">https://www.iida.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/実務経験のある教員等による授業科目一覧.pdf</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	飯田短期大学
設置者名	学校法人 高松学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<a href="https://www.iida.ac.jp/fixed/page-911/">https://www.iida.ac.jp/fixed/page-911/</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和6年6月1日 } 令和10年5月31日	広報・募集戦略
非常勤	会社役員	令和6年6月1日 } 令和10年5月31日	経営・教学
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	飯田短期大学
設置者名	学校法人 高松学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要(シラバス)作成の際、以下の項目の記載について全教員へ要領を配布し作成を行っている。</li> </ul> <p>【記載項目】</p> <p>「授業の概要」「到達目標」「学位授与方針との関連性」「授業計画」「事前・事後学習について」「準備学習に必要な時間」「評価方法」「受講上の注意・課題のフィードバック」「使用テキスト」「参考書」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公表方法は、前年度3月下旬に飯田短期大学ホームページにて掲載。また、在学生に対しては、年度当初に対象学科の授業概要(シラバス)を配布している。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/246/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/246/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田短期大学学則・履修規程で単位認定に関する学則等を定めている。成績評価の方法については、全ての科目でシラバスに記載し成績評価を行っている。</li> </ul>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的な指標として GPA を全ての科目に設定している。GPA に応じて、注意勧告・退学勧告等による学修指導を行う基準を設定し、学修指導を行っている。</li> <li>・算出方法については、成績評価を「秀・優・良・可・不可」で判定し、それぞれ 4.0～0.0 点の成績評価 GP をつけている。</li> <li>・学期 GPA (当該期に評価を受けた科目の GP × その科目の単位数) の合計を、当該期の総履修登録単位数で割って算出する。</li> <li>・通算 GPA (各学期に評価を受けた科目の GP × その科目の単位数) の合計の総和を、総履修登録単位数で割って算出する。</li> </ul>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.iida.ac.jp/fixed/page-835/">https://www.iida.ac.jp/fixed/page-835/</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学では、卒業の認定方針を、大学・学科・専攻レベルで作成しており、学生へ配布する学生便覧への掲載、本学ホームページでの掲載を行っている。</li> <li>・実施に係る取り組みとして、毎年、各学科専攻の内容について教務委員会内で見直し・検討を行い適切に実施している。</li> <li>・卒業に関しては、学則に卒業認定に関する規程を定め、教授会で卒業の認定を行っている。</li> <li>・飯田短期大学の卒業認定・学位授与の方針は、 ①他者を認めあい、「聞く」「問う」「語る」ことのできる学生 ②無限なるものを感じることができる学生 ③他者と共感しつつ自主的に生きることのできる学生 とし、さらに各学科専攻で卒業の認定方針を定め、飯田短期大学ホームページで公表している。</li> </ul>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.iida.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/06/学習の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準%E3%80%80R5.pdf">https://www.iida.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/06/学習の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準%E3%80%80R5.pdf</a>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	飯田短期大学
設置者名	学校法人 高松学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf">https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf">https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf">https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf">https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf">https://www.iida.ac.jp/assets/pdf/introduction/finance/zaimu.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/238/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/238/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.iida.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/令和2年度認証評価機関別評価結果.pdf">https://www.iida.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/令和2年度認証評価機関別評価結果.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 飯田短期大学 生活科学学科
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="https://iida.ac.jp/introduction/educational/">https://iida.ac.jp/introduction/educational/</a> )
(概要) 【生活科学学科】 ○教育目的 社会の変化に対応できる創造性と実践的な態度を備え、生活の機能向上に寄与できる人を養成します。  ○教育目標 ① 人間生活の基盤である家族・家庭生活の重要性を理解し、自己の生活観を形成できる人を育成します。 ② 家庭生活を中心とした人間の生活における人と環境との相互作用について理解を深め、家庭生活の果たす役割・機能を理解できる人を育成します。 ③ 生活者として必要な高度の知識技能を習得し、社会の変化に対応できる創造性と実践的な態度を備えた人を育成します。 ④ 広い視野に立って生活を見つめ、生活課題に気づき、その課題解決を通して、生活の機能向上に寄与できる人を養成します。  【生活科学学科 生活科学専攻】 ○教育目的 ① 生活主体としてうつくしく生きることのできる人間性を備えた、社会に貢献できる人を養成します。 ② 教育者として豊かな人間性と創造力を持ち、学校教育で求められる養護教諭の総合的な知識・技術・態度を備えた、学校教育に貢献できる人を養成します。 ③ 医療を受ける人に寄り添える豊かな人間性と創造力を持ち、医療機関等で求められる事務の知識・技術・態度等を備えた、医療・保健・福祉に貢献できる人を養成します。 ④ 表現者として豊かな人間性と想像力を持ち、生活空間を豊かにする素材と表現についての知識・技術・態度を備えた、自らの感性を社会に生かすことのできる人を養成します。  ○教育目標 ① 生活主体として人間性と創造力を持ち、家政学の知識・技術・態度を備えた人を育成します。 ② 養護教諭、医療事務およびデザインに求められる豊かな人間性を育成します。 ③ 養護教諭、医療事務およびデザインの専門的な知識・技術・態度を備えた人を育成します。 ④ 学校教育、医療機関および社会の様々な生活部面に寄与できる課題解決能力を育成します。  【生活科学学科 介護福祉専攻】 ○教育目的 人としての尊厳を守り、自立支援を重視しながら「その人らしい生活」を支えることができるように、介護福祉士として必要な豊かな人間性を養い、知識・技術共に高い

専門性と高い倫理観を身につけ、社会に貢献できる人を養成します。

○教育目標

- ① 人権擁護の視点を持ち、高い倫理観を裏付ける幅広い教養を備えた人を育成します。
- ② 慈しみの心をもって相手の思いに寄りそうことができ、相手の立場になって考えられる人を育成します。
- ③ 介護に関する制度・施策について基本的な理解ができ、基本的な介護及び医療的ケアに関する知識・技術を習得した人を育成します。
- ④ 社会に通じるコミュニケーションの基本を理解し、利用者や家族及び多職種と連携が図れる人を育成します。

【生活科学学科 食物栄養専攻】

○教育目的

健康を守る食の担い手として、広く社会の要請に応えられる「知識と技術と心」を持ち、社会の向上発展に寄与することができる人を育成します。

○教育目標

- ① 栄養士の職務とその重要性を理解させ、「食」にかかわる高度な専門的知識・技能を備えた人材を育成します。
- ② 対象者のライフステージに対応できる的確な判断力と指導力を備えた人を育成します。
- ③ 生活習慣病が進行する地域社会において、人の健康を損なう多くの疾病の発症や進行を防ぎ、また、人々の健康を保持増進して、より質の高い生活の維持ができるように、食生活の改善面から適切な助言・指導が行える高度な専門知識・判断力・技術・心をもった人を育成します。
- ④ 「食育」に関する豊かな知識と技術と心を習得し、実践的な食に関する指導力を備えた人を育成します。
- ⑤ 「食」の研究者・指導者として必要な研究的・実践的態度を備え、自己研鑽への意欲と能力をもった人を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/>）

（概要）

【生活科学学科】

広い視野に立って生活を見つめ生活課題に気づき、その課題解決を通して、生活の機能向上に寄与できる学生

【生活科学学科 生活科学専攻】

- ① 主体性のある生活者として家政学の専門的知識・技術・態度を修得した学生
- ② 養護教諭、医療事務もしくはデザインのそれぞれの実務に必要な専門的知識・技術・態度を修得した学生
- ③ 修得した専門性を社会でより探究しようと思えることができる学生

【生活科学学科 介護福祉専攻】

- ① 人権擁護の視点を持ち、高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけた学生
- ② 慈しみの心をもって相手の思いに寄りそうことができ、相手の立場になって考えられる学生
- ③ 介護に関する制度・施策について基本的な理解ができ、基本的な介護及び医療的ケアに関する知識・技術を習得し行動できる学生
- ④ 社会に通じるコミュニケーションの基本を理解し、利用者や家族及び多職種と連

携が図れる能力をもった学生

【生活科学学科 食物栄養専攻】

- ① 栄養士の職務とその重要性を理解し、「食」にかかわる専門的知識・技能を備えた学生
- ② 各世代の「食生活」を支えるために、適切な助言・指導が行える学生
- ③ 食育に必要な知識と技術と心を持ち、実践的な食に関する指導力を備えた学生

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:<https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/>)

(概要)

【生活科学学科】

生活者として必要な高度の知識技能の習得に図り、社会の変化に対応できる創造性と実践的な態度を身につけられるように編成します。

【生活科学学科 生活科学専攻】

- ① 生活の主体者として生活科学の知識・技術・態度の修得ができる教育課程を編成します。
- ② 養護教諭、医療事務およびデザインの実務に必要な専門的知識・技術・態度の修得ができる教育課程を編成します。
- ③ 専門知識を身に付けかつ多様な分野の学びを通して新たな創造ができる教育課程を編成します。

【生活科学学科 介護福祉専攻】

- ① 利用者の存在を尊重し、人権擁護の視点を持ち、高い倫理観を形成できるように科目を編成します。
- ② 一人ひとりの生活状況や状態を的確に把握したうえで、個別ケアを重視した専門的支援ができる力を育てるように科目を編成します。
- ③ 利用者の生活習慣や環境を理解し、多様なニーズに対応できる力を育てるように科目を編成します。

【生活科学学科 食物栄養専攻】

- ① 栄養士の職務とその重要性を理解させ、「食」にかかわる高度な専門的知識・技能の習得が図れるように科目を編成します。
- ② 対象者のライフステージに対応できる的確な判断力と指導力を養えるように科目を編成します。
- ③ 「食育」に関する豊かな知識と技術と心を習得し、実践的な食に関する指導力を養います。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:<https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/>)

(概要)

【生活科学学科】

広い視野に立って生活を見つめ、生活の機能向上のために努力できる人

【生活科学学科 生活科学専攻】

- ① 社会、家庭など生活環境に興味・関心をもっている人
- ② 養護教諭、医療事務またはデザインのいずれかに興味・関心をもっている人
- ③ 生活に興味・関心を持ちその質の向上に貢献したいと考える人

【生活科学学科 介護福祉専攻】

- ① 人に深い関心と思いやりを持っている人
- ② 福祉について学ぶ意欲のある人



【生活科学学科 食物栄養専攻】

- ① 「食を食べること」や「食事を作ること」など、食への強い興味を持っている人
- ② 食の専門家をめざし、食の大切さを伝えることができる人
- ③ 人とのつながりを大切にできる人

学部等名 飯田短期大学 幼児教育学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://iida.ac.jp/introduction/educational/>）

（概要）

○教育目的

他者を尊重し、他者に貢献するための豊かな人間性と表現力を備え、社会のニーズに応えられる実践力のある人材を育成します。

○教育目標

- ① 建学の精神を礎に他者を尊重し、他者に貢献するための豊かな人間性を備えた保育者を育成します。
- ② 基本的な保育知識・技能・態度を身につけ、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得の他、より発展的な専門性を追求できる保育者を育成します。
- ③ 日々変化する地域社会のニーズに応えることができる、自己学習能力・コミュニケーション能力・総合的表現力が高く、協働性・自主性を備えた保育士を育成します。
- ④ 他者の健康や安全を守る知識・技能を持ち、常に命を預かっているという意識をもって実践していける保育者を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/>）

（概要）

- ① 他者の生命と人権の尊重および最善の利益を考慮し、信頼関係に基づいた保育を展開できる学生
- ② 保育の原理を基盤とし、多様化する保育ニーズに対応できる専門的知識・技能を習得した学生
- ③ 保育者としてふさわしい倫理観を備え、保育の職務内容及び責任を理解できる学生
- ④ 他者の健康や安全を守り、常に命を預かっているという意識を持って実践していける学生

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/>）

（概要）

- ① 他者とともに生き、他者に寄り添うことができる保育者を養成できるように編成します。
- ② 保育者として必要な基礎教養と専門的知識・技能を学修し、活用できるように編成します。
- ③ 保育者となるための専門的能力を備え、免許・資格を取得できるように編成します。
- ④ 多様化する保育ニーズに応えるための様々な資格を、学生が自由に選択し、取得することができるよう編成します。
- ⑤ 幼児教育・保育についての理解を深め、生涯にわたって学び続ける態度を養うことができるように編成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/>）

（概要）

- ① 周囲の人と協調し、コミュニケーション能力の向上をめざす人
- ② 幼児教育・保育の専門的知識・技能を積極的に学ぼうとする人
- ③ 他者への思いやりを持った行動ができる人

学部等名 飯田短期大学 看護学科
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://iida.ac.jp/introduction/educational/">https://iida.ac.jp/introduction/educational/</a> )
<p>(概要)</p> <p>○教育目的  看護者として必要な豊かな人間性と人格・識見をもち、専門的な知識・技術・態度を習得し、広く保健・医療・福祉の向上と発展に寄与することができる社会人を育成します。</p> <p>○教育目標  ① 建学の精神にもとづき、慈愛に満ちた倫理観をもてる学生を育成します。  ② 専門的な知識・技術・態度を身につけ、包括医療に対応できる学生を育成します。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a> )
<p>(概要)</p> <p>① 豊かな人間性とコミュニケーション力を培い、高い倫理観と慈しみの心をもって他者とかがわることができる学生  ② 看護実践に必要な専門的知識、科学的思考、基本的技術を身につけ、生活者としての対象の健康問題を解決する能力を身につけた学生  ③ 保健・医療・福祉のチームの中で、主体的かつ協調性をもって看護師としての役割を果そうと取り組むことのできる学生  ④ 看護専門職者として自らの能力を評価し、自分の課題を見つけ成長に向けて学び続けることができる学生</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a> )
<p>(概要)</p> <p>① 人間を理解する上で必要な基礎的な科目に加え、仏教に関連した科目等を学び、看護の対象である人間を総合的に考えられるように授業を編成します。  ② 人と関わる上で必要なコミュニケーション力や倫理観を育成できるように授業を編成します。  ③ 看護を実践する上で必要な専門的な知識・技術が身につけられるように授業と実習を編成します。  ④ 対象の健康問題を解決する上で必要な思考を身につけられるように授業と実習を編成します。  ⑤ 社会人基礎力を身につけ、チームとしての自分の役割を認識できるように授業・実習を編成します。  ⑥ 多専門職との報告・連絡・相談にもとづいて行動し地域に求められる看護者としての役割を認識できるように授業と実習を編成します。  ⑦ 看護専門職としてのあるべき姿を意識し、自ら考え課題達成に向かって努力できるよう授業と実習を編成します。</p>
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a> )
<p>(概要)</p> <p>① ひとが好きで、かつ尊重して関われる人  ② 看護に興味・関心があり、意欲的に学ぶことができる人  ③ 看護を学ぶための基礎的学力を備えた人</p>

学部等名 飯田短期大学 専攻科地域看護学専攻
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://iida.ac.jp/introduction/educational/">https://iida.ac.jp/introduction/educational/</a> )
<p>(概要)</p> <p>○教育目的</p> <p>① 建学の精神に基づいて人生の根本課題である「生老病死」をみすえ、看護職者として必要な豊かな人間性と識見を養います。</p> <p>② 看護職者として必要な知識・技術・態度を身につけ、広く保健・医療・福祉の向上発展に寄与することができる社会人を育成します。</p> <p>○教育目標</p> <p>① 看護学のみならず建学の精神に基づいた学びから、個々の人格を尊重する態度を養い、自らの生死観を形成します。</p> <p>② 公衆衛生看護の本質的概念を理解し、自己の健康観・看護観を形成します。</p> <p>③ 地域の人々が自ら健康状態を認識し、健康の保持増進を図るための自主的活動や社会資源の活用ができるように支援する能力を養います。</p> <p>④ 長期的展望にたって地域に顕在している健康課題を把握するとともに、潜在している健康課題を予測し、それを組織的に解決する能力を養います。</p> <p>⑤ 公衆衛生看護にたずさわる者として必要な倫理観や研究的態度を養い、自己研鑽への意欲と能力(姿勢)を高めます。</p> <p>⑥ 保健・医療・福祉の基本的知識を踏まえ、地域におけるコーディネーターとしての能力を養います。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a> )
<p>(概要)</p> <p>① 公衆衛生看護実践に必要な専門的知識と思考および基本的技術を身につけた学生</p> <p>② 地域に暮らす生活者の生活史を背景とした個別性と向き合い、その対象理解に努めようとする学生</p> <p>③ 予防的視点をもって公衆衛生看護活動に取り組むことができる学生</p> <p>④ 個別課題と地域課題を連動して考える視点を持ち、地域全体の健康づくりに取り組むことができる学生</p> <p>⑤ 地域住民、関連職種と連携、協働する視点を持ち公衆衛生看護活動に取り組むことができる学生</p> <p>⑥ 人間として専門職として自らが成熟することを探究することができる学生</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a> )
<p>(概要)</p> <p>① 保健師の素地となる公衆衛生看護学の基礎的な知識と技術を学ぶための授業を編成します。</p> <p>② 対象者それぞれの生活史と現在の健康課題との関連を捉えるとともに将来を見据えた対象理解ができるための知識・態度・技術を養うための授業と実習を構成します。</p> <p>③ 予防的視点をもとにした看護展開に必要な確かな知識を基盤とした保健指導の技術展開を習得するための授業と実習を編成します。</p> <p>④ 個々の対象者と地域特性を連動させた健康課題の探究から、地域全体の健康づくりの方向性を考える視点を習得するための授業と実習を編成します。</p> <p>⑤ 公衆衛生看護活動の展開において重要となる地域住民・関連職種との連携・協働の必要性とその方法を習得するための授業と実習を編成します。</p> <p>⑥ 保健師としての専門性を継続的に探究していくための基礎を習得するための授業と実習を編成します。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>① 保健予防活動に興味・関心があり、意欲的に学ぶことができる人</p> <p>② 公衆衛生看護を学ぶために、看護の基礎知識と統計的知識を備えた人</p> <p>③ 様々な人との良好な関係を自ら築こうとすることができる人</p>
---

<p>学部等名 飯田短期大学 専攻科助産学専攻</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://iida.ac.jp/introduction/educational/">https://iida.ac.jp/introduction/educational/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>○教育目的</p> <p>① 人生の根本課題である生老病死を仏教精神によってみすえ、助産師として必要な豊かな人間性と人格・識見を養う。</p> <p>② 助産師として必要な知識・技術・態度を習得させ、広く保健・医療・福祉の向上発展に寄与することができる社会人を育成する。</p> <p>○教育目標</p> <p>① 仏教精神から「いのち」の尊厳を自覚し、個々の人格を尊重し、生死観をもって助産技術の形成と向上を図る。</p> <p>② 助産学の本質的概念を理解し、慈愛に満ちた人格と人間観を育み、母子保健に貢献・寄与することができる。</p> <p>③ 人間と環境の相互作用の理解と総合保険医療の中で倫理観・役割機能の理解を深め、助産の実践に必要な知識・技術・態度を取得する。</p> <p>④ 対象の健康状態に対応できる問題解決能力を身につけ、助産の実践・研究能力を養い自己研鑽意欲を高める。</p> <p>⑤ 仏教的視点をもって、家庭・施設・社会における人々への諸サービスに対応できる技術を身につける。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>① いのちの尊厳を自覚し個々の人格を尊重でき、生死観に基づいた助産援助の向上を図れる学生</p> <p>② 対象の健康状態に対応できる問題解決能力を身につけ、助産実践に必要な知識・技術・態度を修得した学生</p> <p>③ 助産学の本質的概念を理解し、助産の実践や探求する能力を養い自己研鑽を身につけた学生</p> <p>④ 助産学に必要とされる倫理観や役割機能の理解を深め、慈愛に満ちた人格と人間観を育み、母子健康に貢献・寄与することができる学生</p> <p>⑤ 家庭・施設・社会におけるライフサイクル各期にある女性および家庭への諸サービスに対応できる技術を身につけた学生</p>
--

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a>）</p> <p>① 助産援助につながる助産診断・技術を学びます。 助産援助を行うにあたって必要な知識・態度・技術を講義や演習により修得できるようにします。事例検討などを通して、実際の場面に対応できるような授業を設定します。</p> <p>② 助産師の素地となる基礎的な知識を学びます。 実習病院の医師による講義や各専門分野の講師により臨場感のある講義や演習の科目を設定しています。助産師として働いていくうえで基礎となる知識を身につけられるように授業科目を設定しています。</p>
---

<p>③ 地域社会の実情に対応できる助産的知識を学びます。 助産活動における地域社会が抱える諸問題について学び、具体的な援助展開ができるように授業科目を設定します。</p> <p>④ 実習での実践を通して助産師としての役割を修得します。 専門分化・多様化する産科医療に対応できる判断能力や問題解決能力、実践能力を養うために実習病院と協力して実習を実施していきます。</p> <p>⑤ 助産学研究を実施することで探究心を培います。 学生自身が研究課題を明らかにし、課題解明に向けて実際に研究の過程を行うことで、助産学を探究する基礎を身につけられるように個別指導していきます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>① 助産学を学ぶための看護基礎学力とコミュニケーション能力を備え、実践できる人</p> <p>② 助産学を意欲的に学ぶことができる人</p> <p>③ 女性および家庭におこりうる諸問題に関心があり、その支援に携わりたい人</p>

<p>学部等名 飯田短期大学 専攻科養護教育専攻</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://iida.ac.jp/introduction/educational/">https://iida.ac.jp/introduction/educational/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>○教育目的</p> <p>① 教育者としてうつくしく生きることのできる豊かな人間性と創造力を持つ人を養成します。</p> <p>② 児童生徒等及び教職員の健康の保持増進のための知識・技術・態度を備えた人を養成します。</p> <p>③ 養護教諭として高度な専門性を学校現場で発揮できる人を養成します。</p> <p>○教育目標</p> <p>① 教育者として豊かな人間性と創造力を備えた人材を育成します。</p> <p>② 養護教諭として高度な専門知識・技術・態度を備えた人材を育成します。</p> <p>③ 学校教育の発展・向上に寄与できる課題解決能力を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>養護教諭として修得した高度な専門性を学校現場で活かすことのできる学生</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>学校現場が求める養護教諭に必要な高度な知識・技術・態度の修得ができる教育課程を編成します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/">https://www.iida.ac.jp/etcinfo/248/</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>① 児童生徒の健康や教育に興味があり、養護教諭の専門性を探究したいと考える人</p> <p>② 生活科学専攻での学びをさらに深化させることにより、養護教諭の専門性を探究したいと考える人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：<a href="https://www.iida.ac.jp/fixed/page-787/">https://www.iida.ac.jp/fixed/page-787/</a></p>
---

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
生活科学学科	—	8人	3人	4人	4人	3人	22人
幼児教育学科	—	3人	3人	2人	1人	0人	9人
看護学科	—	4人	4人	7人	3人	2人	20人
	—	15人	10人	13人	8人	5人	53人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		64人					64人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		<a href="https://www.iida.ac.jp/introduction/professors-position/">https://www.iida.ac.jp/introduction/professors-position/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活科学学科	130人	79人	60.7%	260人	171人	65.7%	0人	0人
幼児教育学科	60人	40人	66.6%	120人	80人	68.3%	0人	0人
看護学科	60人	52人	86.6%	180人	135人	75.0%	0人	0人
合計	250人	171人	68.4%	560人	386人	68.9%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活科学学科	90人 (100%)	7人 ( 8%)	79人 (88%)	4人 ( 4%)
幼児教育学科	39人 (100%)	0人 ( 0%)	39人 (100%)	0人 ( 0%)
看護学科	42人 (100%)	5人 ( 12%)	37人 ( 88%)	0人 ( 0%)
合計	171人 (100%)	12人 ( 7%)	155人 ( 91%)	4人 ( 2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：松本大学・飯田短期大学 専攻科地域看護学専攻 養護教育専攻 就職先：飯田市立病院・飯田病院・飯田市・伊那市・日清医療食品(株)・(株)メフォス・ 飯田市社会福祉協議会・特別養護老人ホーム・丸山小学校・旭松食品・天恵製菓 飯田信用金庫・諏訪信用金庫 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要（シラバス）作成の際、以下の項目の記載について全教員へ要領を配布し作成を行っている。「授業の概要」「到達目標」「学位授与方針との関連性」「授業計画」「事前・事後学習について」「準備学習に必要な時間」「評価方法」「受講上の注意・課題のフィードバック」「使用テキスト」「参考書」</li> <li>・公表に関しては、前年度3月下旬に飯田短期大学ホームページへ掲載している。在学生へは、年度当初、対象学科の授業概要（シラバス）を配布している。</li> </ul>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則で単位認定に関する内容を定めている。成績評価の方法については、全ての科目でシラバスに記載し成績評価を行っている。卒業に関しても、学則に卒業認定に関する規程を定め、教授会で卒業の認定を行っている。</li> </ul>				
学科名	専攻名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
生活科学学科	生活科学専攻	64 単位	有	50 単位
	介護福祉専攻	64 単位	有	50 単位
	食物栄養専攻	64 単位	有	50 単位
幼児教育学科		64 単位	有	50 単位
看護学科		105 単位	有	50 単位
専攻科	地域看護学専攻	35 単位	有	単位
	助産学専攻	35 単位	有	単位
	養護教育専攻	62 単位	有	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： <a href="https://iida.ac.jp/institution/campusmap/">https://iida.ac.jp/institution/campusmap/</a>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
生活科学学科	生活科学専攻	980,000 円	250,000 円	0 円	
	介護福祉専攻	980,000 円	250,000 円	0 円	
	食物栄養専攻	1,000,000 円	250,000 円	0 円	
幼児教育学科		1,000,000 円	250,000 円	0 円	
看護学科		1,200,000 円	250,000 円	0 円	
専攻科	養護教育専攻	980,000 円	200,000 円	0 円	
	地域看護学専攻	1,400,000 円	300,000 円	0 円	
	助産学専攻	1,400,000 円	300,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教員だけではなく、事務局でも、教務課を中心に出席状況や就学状況、資格取得状況等、学生の修学状況を確認し支援に取り組んでいる。また FD 活動では授業改善アンケートを行い学生の学びの改善を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生課の職員だけではなく、教員、クラスアドバイザー、キャリアコンサルタントが就職相談を行い、地元ハローワークとも連携し、就職情報の提供、就職支援を行っている。学生一人ひとりに個別の対応がおこなえるよう体制を整えている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 2名の医師を学校医として委嘱し、学生の健康管理に努めている。毎年、定期健康診断を実施している。健康センターには、職員が常駐しており、健康センター委員会も組織され、心身の健康などに関する相談に対応している。健康センターが予約窓口となり、カウンセリングを受けられる体制も整っている。障がいのある学生への対応は障がい学生支援委員会がある他、入学前からも配慮願を配布・回収し相談できる体制がある。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <a href="https://www.iida.ac.jp/fixed/page-303/">https://www.iida.ac.jp/fixed/page-303/</a>
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。



(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F220310105883
学校名 (〇〇大学 等)	飯田短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 高松学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		38人	36人	41人
内訳	第Ⅰ区分	19人	13人	
	第Ⅱ区分	8人	11人	
	第Ⅲ区分	11人	12人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				41人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。